

# 認知症対策考える国際シンポジウム

## 1月30日 5時41分

世界で認知症の人が増えるなか、国として認知症への対策を進めている各国の政策責任者などが意見を交わすシンポジウムが、都内で開かれました。

このシンポジウムは東京都医学総合研究所が開いたもので、認知症への対策を国として進めているイギリス、フランス、オランダ、デンマーク、オーストラリアの政策責任者などと、日本の担当者が参加しました。

この中でイギリスの政策責任者は、看護師や作業療法士などで作る支援チームを各地域に作ることで、早期診断と適切な支援につなげられるようになったと報告しました。また、認知症の人が興奮したときなどに使われることが多い抗精神病薬の使用を減らし、適切なケアで対応する方針を示したところ、使用量が5年間で3分の1近くまで減ったことも紹介しました。

このほか各国の参加者からは、「認知症の人ができるだけ長く住み慣れた地域で暮らし続けるためには、介護する人への支援を充実させることが重要だ」という意見が出ました。

認知症の人は、高齢化に伴って世界中で増え続け、日本でも介護が必要な認知症高齢者が推計で300万人を超え、厚生労働省は、早い段階から本人や家族を支える「支援チーム」を地域に設置することなどを盛り込んだ5か年計画に新年度から取り組むことにしています。

東京都医学総合研究所の西田淳志主任研究員は、「各国が、認知症を非常に大きな課題として取り組んでいることが分かった。日本も5か年計画をきちんと実行し、成果を上げることが大切だ」と話しています。

[社会ニュース一覧](#)

[科学・医療ニュース一覧](#)

[政治ニュース一覧](#)

[経済ニュース一覧](#)

[国際ニュース一覧](#)

[スポーツニュース一覧](#)

[文化・エンタメニュース一覧](#)

[動画一覧](#)

- [ご意見・お問い合わせ](#)
- [NHKにおける個人情報保護について](#)
- [放送番組と著作権](#)
- [NHK オンライン利用上の注意](#)